演劇空間スペースベン
おしばいって、たのしいよ！

〈文／外舘暢子〉

TVの芝居を一人で観ていると「これ、おしばい？」と6歳の長女。「やってみたいなぁ」。芝居から離れていた私には、なんとなくその言葉が気になっていたが、なかなか機会がなかった。

ところがだ。ある日新聞で、市民参加型のイベント「南部道楽千年祭」の野外ミュージカルの参加募集広告をみつけた。しかも、「経験・年齢問わず」なんて書いてある。どんなことをやるのかよくわからないけど「年齢問わず」この言葉に私はひかれた。

早速、長女に「いっしょにお芝居にでてみる？」と聞いてみる。「でてみたい」「よーし、じゃあやってみようか！」。不安そうな長女を、そして元気だけはある4歳の長男も、置いていくわけにもいかないのでとりあえず一緒に（後にこのとりあえずが大変なことになるのだが）オーディション会場に連れていった。結局オーディションといっても事前告知があまり大々的でなかった為か、参加者はさほど多いわけでもなく、ほぼ全員が参加OK！ ということになった。

稽古は土日のみ、工業高校の体育館や教室で行われた。稽古時間が少ないためか、ミュージカルといっても、一般公募の出演者はコーラスのみで、台詞も多くなく、語りやバレエ・武部道場・虎舞・太鼓・十日市秀悦さんの客演などで構成され、それぞれ単体で稽古ができるようになっていた（実際、合同練習は3日間だった）。配役のなかで、主役の南部光行の孫、太郎丸2歳というのが目にとまった。しかし、最年少が0歳の女の子。次が4歳の長男だ。

だが、本番まで日はない。ということで、2歳という設定を4歳にし、長男が太郎丸の大役をやることになった。ついでに連れてきた長男が、しかもじっとしていることの大嫌いなこの子が。

「君が太郎丸だよ。この人がおじいちゃん」と、劇団「やませ」の柾谷さんを紹介された当の本人は、「よろしく、太郎丸！」と柾谷さんに挨拶され、なんの事やらという顔をし、「おしばいだから？」と私に聞いたかと思うと、次の瞬間には柾谷さんのところに走っていき、そっと背中をつついていた。

親の心配をよそに、二人とも稽古が楽しいといった様子だ。しかし、なんといっても子供。二人をはじめ、子供たちは広い体育館での稽古でじっとしているわけもなく、稽古をしているまわりで稽古以上に体力を使って遊んでいる。長男も、「出番だよー」の声に逃げ回り、捕まえられては泣きだし、「一体君はなにしにきてるんだ」ということもしばしば。

一時はどうなることかと思ったが、衣装も決まり、各パートとの合同稽古、テレビ・ラジオの取材など、本番が近づくにつれ、だんだん雰囲気は盛り上がっていった。

前日、会場でのリハーサル。出来上がった舞台に、照明装置。一瞬、緊張しかけた私の目の前には、衣装をつけ大声をだして走り回る子供たちが…。

ともかく、野外での舞台、しかも1日目と2日目では時間帯がずれていたので、違った雰囲気だった。（1日目はすっかり暗かったので観客はほとんど見えなかったが、2日目は夕暮れ時で観客の顔がひとりひとり見えてしまうし、舞台袖も観客に丸見え。逆に照明効果がよく見えなかったはず）

「とっても楽しそうにやってたね」。公演後、そんなことを言われた。事実、子供二人と好きな芝居ができたのは本当に楽しかったし、「らいねんもおしばいにでたい」という二人の言葉、それが今回、私にとっての一番の収穫だった。

来年はもっと、参加者が増えるはず。今年の一般参加は子供が多く、結局付き添いの保護者も出演することになったのだが、大人、特に男性の参加に期待したい。

そして希望。ひとりひとつずつでも台詞があったほうが「芝居に出た」実感がもっとあると思うし、本番前のドキドキ感も違うはず。

最後に、今回、衣装の手配、パンフレット作成などの制作をひとりで仕切ってくれた山田景子さんへ…本当にお疲れ様でした。

本当に最後に、心残りがひとつ。「打ち上げ」をしないと終わった気がしないのは私だけかしら…？

12月のFriday Amusement Negative Shop

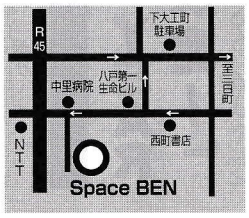
■12月7日（409回）
安達良春プラスワンシアター

■12月14日（410回）
未定

■12月21日（411回）
未定

■12月28日（412回）
「勝手に忘年会」

※全て午後7時30分～、料金500円
チケットはスペースベンにて販売



駐車場はございませんので、車でのご来場はご遠慮下さい。
（近くに西町書店駐車場有り）

問 スペースベン
八戸市柏崎1−11−8
☎&FAX 43−9876

※スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。

FANSでは、脚本を広く募集しています。何か表現したくても踏み出せないでいるあなた、一度「物語」を書いてみませんか？ FANSでは、そんな方の思いを大切にして舞台にのせてみたいと思っております。

☞ スペースベンHPアドレス http://spaceben.com/
Eメールアドレス fans@spaceben.com